



軽防協ニュース速報（号外）

2025年12月17日

軽種馬防疫協議会 事務局

(JRA 馬事部防疫課)

国内における日本脳炎の発生

2025年11月7日に鹿児島県において日本脳炎の発生が確認されました（1戸1頭）。国内の馬における発生は2003年以来、22年ぶりとなります。

これまでのところ、感染の拡大は認められていません。

日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスを原因とする人獣共通感染症で、ヒト・馬に脳炎を起こす疾病であり、日本・東南アジア・南アジア・オーストラリア北部の一部に広く分布しています。日本脳炎ウイルスは、コガタアカイエカをベクターとして、蚊とブタの間で感染環が成立しています。そのため、日本脳炎の流行時期は、ベクターの活動期間と一致しており、夏から秋にかけて発生します。豚は日本脳炎の增幅動物として重要です。ヒトや馬はウイルス感染蚊の吸血によって偶発的に感染しますが、ヒトや馬から他のヒトや馬に直接感染することはありません。感染したとしても多くは無症状のまま経過し、発症馬は発熱、沈鬱、興奮などを呈し、重症例では起立不能となります。日本では、2003年にワクチン未接種の農用馬1頭で発生が報告されて以降、馬では発生がありませんでしたが、ヒトでは現在でも毎年数名程度の患者が報告されています。

日本ではほとんどの軽種馬にはワクチン接種による予防が行われていますが、現在でも日本脳炎ウイルスは夏から秋にかけて活動していることが疫学調査から明らかになっており、警戒が必要です。予防には蚊の駆除などの衛生対策およびワクチン接種が非常に重要となります。

参考資料：
馬感染症シリーズ「馬の日本脳炎」
馬の予防接種要領

軽種馬防疫協議会